

小笠原群島にくらすハシナギイルカの列島間移動

今号では、帝京科学大学と共同で実施しているハシナギイルカの個体識別調査についてご紹介します。これまで、背ビレ写真を用いた個体識別(図1)の結果から、父島列島と母島列島を行き来する個体がいることや、ミナミハンドウイルカのように全体の集団の中でも良く一緒に行動する個体がいることがわかってきた旨をお伝えしてきました(イルカ通信No.101, 107参照)。

その後の進捗として、2023年に智島列島で得ることができたデータから、一部の個体が智島列島から母島列島まで小笠原群島全体を利用していることが、ようやく明らかになりました。2023年までの識別個体数は266個体となっており、そのうち約2割の個体が、智島、父島、母島列島のすべてで確認されています(図2)。中には、智島列島や母島列島のみでしか確認されていない個体が数個体いますが、9割以上の個体が父島列島でも確認されていることから、ハシナギイルカたちは父島列島を中心に離合集散しながらくらす可能性が考えられます。

智島列島や母島列島でじっくりとハシナギイルカの調査ができる機会は毎年各2~3日程と非常に限られているため、さらなるデータの収集が求められます。今後も調査を継続し、研究結果に進展がありましたら改めてお伝えします!



図1.ハシナギイルカの背ビレの一例

背ビレの形状や自然についた傷が個体識別の手がかりになる。写真は2枚とも同じ個体(識別番号BSL-146)のもの。右の写真では、背ビレの基部に大きな欠損が増えたことがわかる。自然標識を利用した個体識別の際には、このような手掛かりとなる特徴が変化する場合があることにも注意が必要。

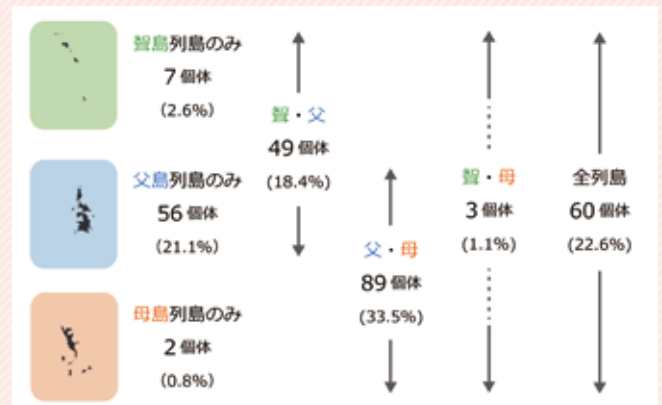


図2. 2023年までの調査における識別個体の確認海域



小笠原ビジターセンター『ザトウクジラ展』開催中!

小笠原ビジターセンターでは毎年、クジラ展を開催しています。今回のテーマはホエールウォッチング中に見られる海鳥や、イルカたちにも注目してみようという展示内容です。

ほぼ実物大のザトウクジラパネルや、鯨類の映像もご覧いただけます。ぜひ一度、ご来館してみてくださいね。

開館日: おがさわら丸入港中 **5月9日まで開催中!**

時間: 8時30分~17時まで

(4月27日、28日、5月1日、3日、4日は21時まで開館)

『イルカ通信』年間発行回数変更のお知らせ

いつも『イルカ通信』をご愛読いただき、誠にありがとうございます。これまで隔月(年6回)にて発行しておりましたが、今号より年4回(1月、4月、7月、10月)に変更させていただきます。今後は、本誌に加え協会公式SNSも通じて、最新のイルカ情報をお届けしてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。